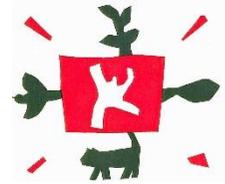




# 共同通信



2017年2月24日 246号(455号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

## To tell the story 144

『松島朝義 琉球陶藝展』のご報告

「松島朝義 琉球陶藝展」(1月31日～2月5日 アートガレージ)は、多くの方がたのご協力により無事おこなわれました。いろいろな面から大成功でした。お礼かたがた、ご報告させてください。

主役の松島さんは沖縄県工芸公募展最優秀賞、西日本陶芸大賞など受賞多数、陶芸では沖縄からただ一人、人間国宝の母体である日本工芸会の正会員に選出されている陶芸家です。会期中の31日から6日まで、ずっと当地に滞在いただきました。

弟子につかず弟子をとらず、単独で焼き物の作業ばかり 40 数年間つづけてき

た方なので、「1週間も陶房から離れて大丈夫かな」とご本人も心配しておられました。しかも沖縄とは20度ほど気温差のある真冬に。でも70歳の古希を迎えながら青年のように元気で、沖縄の人らしい素朴さとユーモアで、たくさんの人たちと新しい出会いを楽しんでゆかれました。

初日の夜には礼拝堂で特別講演「松島朝義が語る沖縄の空の思想」。これは関西神学塾の「沖縄戦後民衆史特別講座」の最終回をかねて、担当の森が聞き役となり、芸術論をたのしく語っていただきました。なぜ焼物をはじめたのか、焼物の面白さとは——沖縄の空(くう)をめぐ

時代にふり回されるのではない	自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた	自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある	自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした	自分の人生を語ってほしい
今日 こんな決意をしたという	自分の人生を語ってほしい

る哲学的な話から技術的な解説まで、あつけらからんとフリーに。50人くらい、礼拝堂いっぱいにお集まりいただきました。

### 子どもたちとお母さんと

2月2日・3日には、幼稚園の年長組のみんなと陶芸体験。1日目、まずは利き手じゃないほうの自分の手を画用紙にスケッチ。うらおもて、それから手相や指のシワまで書きこんでいきます。「どうということ？」と松島さんに聞くと、「ものを見る、観察するというのを自分の手でやってみるのがねらい」とのことです。つづいて画用紙をうしろに回して、各自うすく延ばした粘土を前に、そこに手を乗せ、竹べらで切りとって手形をつくります。ここでも手相やシワを刻みます。ここで1日目おわり。

2日目は、すこし乾いた粘土をひっくり返して反対側のもようを刻みます。それから土台をつくって手を差しこんで「手が立ち上がった！」自分の体である手というものをよく見て自分でつくってみる、するとそれぞれ個性の違う、かわいいパーの手がずらっと並びました。あとは、この機会に新品に買い替えてもらった園庭の電気ガマで、ピシッと焼いてもらうまで乾燥を待つのです。

この年長さんの「手づくり」をお手伝いいただいた陶芸サークル「ふきのとう」のみなさんも、松島さんのアドバイスで焼物づくり。実用的でよさそうなコップやお皿を作ろうとねらうのでなく、テク

ニックとか理論とかはぜんぶ捨てて素直に土と向きあい形にしてみる。するとここでも十人十様の「オブジェ」が土の中からあらわれました。固くなって使えなくなっていた土も松島さんの手と足で練り直してよみがえらせてもらい、いろいろな「目からウロコ」だったとのこと。子どもたちの「手」ともども、作品展がたのしみです。

### 娘さんと豆腐よう

4日の土曜日には、東京から娘さんの松島よう子さんをお迎えして「古式豆腐ようの試食&お話し会」。ようさんはモデル業を15年もつづける一方で、沖縄の伝統的な発酵食、豆腐ようづくりを継承しておられます。「どうして？」とお聞きすると、世界的な珍味としても知られる豆腐ようは工場で大量生産されたものがみやげ店に並んでもいますが、琉球王朝で昔から受けつがれてきたものは手間ひまがかかり、松島さんの周りにしかなく、自分がやらないと途絶えてしまうから。それと、モデルはクライアントの要望に合わせていくばかりだけど、自分でもものをつくることで、合わせていくしんどさにも強くなれると。

都会では「石を投げればモデルに当たる」といわれる芸能全盛時代ですが、ようさんはどうして長年第一線で活躍できてきたのか、試食会ではいろいろご質問。気づいたのは、父娘でやっぱり似ているなあということ。お父さんが作るうつわは「空つわ」、空っぽな入れ物で、使

われること、なにかを乗せてゆたかな関係が結ばれることに向けて作られます。娘さんも、タレントや女優になりたいステップとして自分を売り込もうとするのではなく、だれかが作った洋服や商品をとどけるために、自分をおさえたモデルのプロに徹しています。大企業のCMでテレビにも登場していますが、決して出しゃばらない。モデルさんにも職人がいるのだなあ。

もうひとつ大事なこと、美容の秘訣もお聞きしました。化粧品えらびよりも毎日の習慣。どんなに疲れていても洗顔して寝ること、軽くでも運動で汗を出すこと、それから発酵食！ モデル仲間のあいだでも毎日味噌汁や納豆など。それからよう子さんは豆腐ようとのことでした。

試食会では豆腐ようの他、お父さんの大皿にお隣の「シオサイ」でカラフルなお料理をもりつけていただいて、NHK教育テレビ『ひとりのできるもん！』などで食育をひろめる料理研究家・坂本廣子さんや、お向かいのお料理屋「花ゆう」の大将さん、子どもたちもまじえて舌つづみの晩さんでした。

他では手に入らない琉球王朝の豆腐ようの紹介は「豆腐よう 松島」ホームページ [tofuyo.shop-pro.jp](http://tofuyo.shop-pro.jp) で。数カ月待ちの予約注文制ですが、優先的に回してくださるとのこと、ご希望の場合は森までご一報ください。

## 日曜日

あけて5日は、松島さん親子もいっし

よに日曜礼拝で菅澤邦明先生の熱のある説教をお聞きしました。陶芸展のほかに節分や餅つき、次週からは小黒三郎さんの組み木展もつづくなか、いつ準備したかと不思議になる、よくできたお話でした。松島朝義さんにお聞きすると、お話が歌とともにあるという空間にトータルにショックを受けたとのこと。自分の体のなかには歌うという運動がないけれど、説教や賛美歌の言葉が音楽や花とともに一つになっている場、そこに入ってみて驚いたと。

朝義さんは大学時代に聖書を読みふけり、関西神学塾でおなじみの新約聖書学者・田川建三先生の本はすべて読んでいたとのこと。よう子さんも幼稚園は教会だったそうですが、大人になってからは初めて。親子とも初めての礼拝体験にびっくりしながら階段を下りて、アートガレージの陶芸展会場へ。

この日がもう最終日。片付けの準備しながら、来場いただいたみなさんとおしゃべりしていると、今回の目玉、第57回日本伝統工芸展入選作「琉球南蛮大皿」（直径56cm）をお買い求めいただくことに。この作品、黒を基調に遠くはらかな静寂の無の境地を中心部にしのぼせる大物で、ふつうの家では置く場所もないから、まさかと思っていましたが、あっさり「いいなと思って」。お聞きすると近くのお寺さんとのこと。なるほど似合うなあ。

もう一つの、チラシやポスターにかかげた新作の大皿は、園長先生の英断で幼

稚園の園舎にかざること。こちらは黒の大皿とは打って変わって、押しよせる波のような奔流が皿の上にあられた作品。ふつうなら美術館に飾られるような芸術品を、毎日目にしながら育つ子どもたちの心ひとつひとつに、広くたくましい沖縄の海の生命力が宿らんことを。

### くらしのなかで

展示会は、関わっていただいたみなさまのおかげで、次々にお皿や花びんやお猪口などお持ち帰りいただき、売上も目標の2.5倍くらいになりました。商売ではないのですが、燃えるような太陽の下、松島さんが沖縄の土を掘り出して練りあげ、1回の窯たきで約6トンもの琉球松を焼き、いのちをこめて生み出した器が、教会・幼稚園・ご近所のみなさん、それぞれのお家の食卓や玄関などに置かれ、くらしの中に美しさやうるおい、安らぎをかもし入れ物になる——そんな人とひとの関係の広がりを感じつつ毎日でした。

これまではデパートや美術館、ギャラリーばかりで、手づくりの陶芸展を人びとの暮らす町なかでするのは松島さんにとって初めてだそうで、「こんなことが可

能なんだ」と、それをなしとげたみなさんの暮らしぶり、日々の底力にとっても感動しておられました。準備や片付けなど、表には立たずに支えてくださいました方々に深く感謝申し上げます。

陶芸展は終了しましたが、終わらないのしみも残してゆかれました。菅澤先生と「花ゆう」さんのところに高さ60cmの花もようつき長壺が置かれています。沖縄の蒸留酒、泡盛を入れるもので、3年するとまるやかな「古酒」ができあがります。「3年後にまた呑みにこようね」とニコリ笑顔でお別れしました。

(森 宣雄)



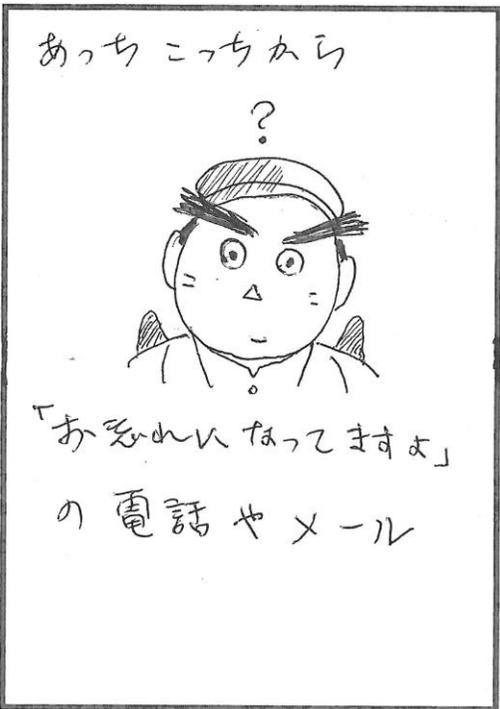
#### 日本基督教団西宮公会教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公会教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公会教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

?! 晴水のち福ちゃん さちお作

忘れもの



晴水のち福ちゃん さちお作

最近、痛気味のあつたん



# あんなこと こんなこと

2017年1月16日(月)

## 雪がやってきた！

この日の朝にいつもお世話になっている篠山後川(しつかわ)の小倉文章さんから電話が。「雪、いる？」「子どもたち、遊ぶでしょう？」と、連絡がありました。すると、屋には、軽トラックにいっぱい！の雪が到着！家の駐車場に止めておいて朝起きたらこんなことに...と、そのまま西宮の公同幼稚園を思い出してくださり、届けてくださいました。

次の日には、子どもたち1人1人、冷たい雪を握っては「冷た〜い！」「ガリガリ〜」と言いながら、冬を楽しみました。



2017年1月17日(火)10時～

## 大地震子ども追悼コンサート

高松公園

歌のゲストに“藤川晃史さん”、ピアニスト“城村奈都子さん”をお迎えして、子どもたちやお母さんの素敵な歌声の響き、温かい時間を過ごすことが出来ました。



2017年1月21日(土)9時30分～12時ごろ

## 公同たこあげ大会

武庫川河川敷

快晴の中、おとなそして子どもたちも武庫川でのひとときを楽しみました。お昼には、恒例のお楽しみ“公同なべ”。いっぱい走った後の、温かい公同なべの美味しいこと！



2017年1月31日(火)～2月5日(日)

**松島朝義 琉球陶藝展**

アートギャラリー

沖縄から松島朝義さんをお迎えして、陶芸の展示、販売。2月4日(土)には、娘さんの松島ようこさんの「豆腐よう」のお話を伺うことが出来ました。年長の子どもたちは、松島さんに教えていただき、卒園の作品づくりもしました。



2017年2月7日(火)～12日(日)

**小黒三郎 組み木のお雛さまと武者人形**

アートギャラリー

小黒三郎さんは、10日(金)～12日(日)にアートギャラリーに来られ、糸のこの実演などされながら、お客さまと交流されていました。11日(土)には、10名の方が参加されワークショップをして、昇り人形をつくりました。



2017年2月19日(日)14時～15時半ごろ

**涙と笑いの吟遊詩人 リピート山中・コンサート「人と街の物語」**

西宮公会堂チャペルホール

昨年末に誕生した「にしきたハーモニー」も西宮北口駅を囲む4つのエリアを見事に歌にしてくださいました。そして、また新しく「共同パン」のうたを初披露！ 大人から小さな子どもたちまでたっぷり愉ませていただいた1時間半でした。



## ～あるがままに～

### 「順子先生の出会い日記」

1974年の春にここ西宮で起きた事件があります。その後廃園となり、今はなくなった甲山学園での園児の死亡事故です。職員だった当時22歳、淫漣とした沢崎悦子さんが警察に連行されました。冤罪ということばに出会い（同じころに狭山事件もあり）、救援会、裁判いろんな時間が流れて、完全無罪を勝ち取るまでにどれだけの年月があったことでしょうか。その裁判での弁護団長の古高健司先生が昨夏亡くなられ、そこで当時の弁護団から記念の会をとの提案があったと、今は山田姓になっている悦子さんからお知らせがありました。他に類を見ない救援会の組織、親兄弟親戚以上の繋がり。事件当時に学園の園長だった荒木潔さん、2011年年明けに亡くなられたのですが、その時は荒木さんを支える会の主催で思い出のひとときを過ごさせていただきました。1974年の春にまだ3歳になっていなかった我が家の長男、そのころ、家よりも会の事務所で過ごすことが多く、会のメンバーにほんとに可愛がっていただいたのですが、その息子が当時の自分くらいの娘を連れて出席。時の流れを思うと同時に、人の一生を奪ってしまうことになった出来事の重さ、その時間を感じさせられたものです。

志を持ち、四国から上阪、重症心身障害児の施設の保母としての歩みを始めた

ばかりのほんとに可愛いぼっちゃりしたお嬢さんの運命のそれからは、語れないほどに激動のものとなりました。人との出会いの中でわたしたちには及ばないほどの成長をしていかれますが、彼女の心の中にあっただのはわたしは子どもたちとの時間を過ごしたかったというもの。わたしたちも冗談ではなく本気で「悦子さんを宝塚市の保母にする」と市の仲間とよく気炎をあげていました。1970年代は宝塚市の保育所に勤めていて、また80年代に公同に移ってから声はかけていました。ただ裁判の活動が忙しかったのと彼女のかかえていた股関節の不自由さがあり、とうとう叶わずでお互いに60代に。

古高先生のこともあり、ここ数か月の間に3度ほどお手紙をいただくことになったのですが、その3度ともに文章は違い書かれていたのがご自分の運命のこと、そしてそういう人生を送ることになった甲山事件で一体何だったんだろうというものです。

「TVニュースで保育園や幼稚園のことが話題になっているのを見る時、保育士と幼稚園教諭の資格を使うことなく終わった原因に怒りがこみあげてきます。でも甲山の闘いで学んだこと、出会った人々が今のわたしの人生を充実したものにしていてことを考えた時、怒りも鎮めることができます」、中の一通ですが、時にはあなたはよかったねというものもあり、運命という得体の知れないもの、その重さを感じるところです。

ただただ恵まれて、大変だった時期はあるものの 20 歳で保育園との出会いがあり、そこからそれなりに数奇な年月も時にはあったものの、今も子どもたちとの生活を楽めているわたしにとっては彼女の吐露するものは重い。

この共同通信の 11 月号に掲載された福島の大内先生の「宿泊保育同行記」は読まれてすぐに、子どもの育ちに対してあなたが願ってきたことが実を結んでよかったね、その努力に頭が下がるというような文章とともに、やはり二つの資格を持ち、その資格を活かして仕事をすると思って田舎から出てきたわたしは～と書かれてありました。

2 歳違いのわたし、そんなに壮大な思いを持っていたわけでもなく、この仕事にずっと関わってきた者としては自分の道筋を振り返り、身の引き締まる思いにも。

果たして、そんな思いの中での道を歩まざるを得なかった人、そんな人がいることを、引き受けることなんてできないにせよ、どこまで心にしてきたかです。これは震災などで思いがけないその後を歩かれることになった方々のこともそうです。人生は長いようで実は短い。そしてその中での多くの出会いを通して自分がどれほど成長できたか、出会いを活かしてきたか問われること多しです。

P,S,

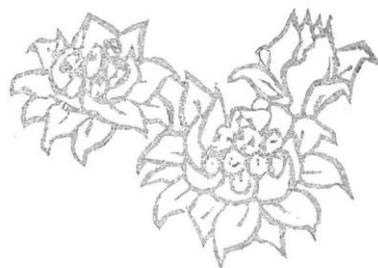
小高先生の会は、18 日少人数ながら懐かしい顔が集まり、偲ぶひとときを過ごしました。

## 「こうぞう版行動報告書」

車いすでの飛行機の搭乗は過去にハワイに行ったときと東京に行ったときの 2 回です。今回沖縄に行くので 3 回目になります。過去 2 回の搭乗は電動車いすだったので、航空会社からバッテリーの種類（シールドかドライか、ニッケル水素かリチウムイオンか）や折り畳み可能かなど事細かに調べられます。今回は手動なので、当日行って飛行機の搭乗口で専用車いすに乗り換えます。そして席のところまで移動して席に座りなおします。電動のほかにガススプリングを搭載している車いすの場合、国際線に搭乗できない場合もあるようです。

…で、この共同通信が発行されるころ、沖縄を満喫していると思います。

(下平 浩三)



## ～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

### 「アメリカでも奮闘しています」

1月から、アメリカに新しい大統領が赴任し、みなさんもお存知の通り今アメリカは、混乱のただ中にあります。

トランプ大統領の当選は、誰もが予想していなかったことでしたが、現実となった後から、私たちの住んでいるカリフォルニアは特に移民が多い地域ということもあり、自分たちの身に危険が迫るような不安感を多くの人たちが抱えることとなりました。特に私たち家族のように、ビザでこちらに滞在している者たちにとっては、存在自体が今のアメリカでどのように位置付けられるのか分からない部分さえあります。

10月に日本に一時帰国してビザを再取得しましたが、もしあの時にビザが取得できていなければ、きっと今頃強制帰国させられていたことでしょう。また、私たちの住んでいる地域は特にメキシコからの移民が多く、メキシコからの移民にとっては、今までアメリカに長く貢献し、アメリカを愛してきた人たちも、故郷がアメリカに敵対視されている今となつては、本当にショックが隠せない状態にあります。小学2年生の娘、また幼稚園の息子のクラスにはたくさんのメキシコ系のお子さんがおられますが、そんな幼い世代のクラスメイトでさえ、大統領についてのコメントをクラス内でするほどです。やはり親や家庭での話題がその

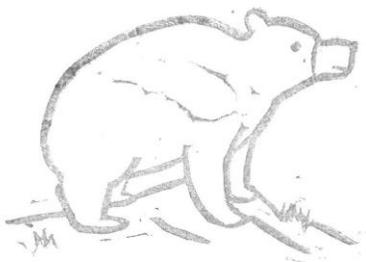
話になっているからでしょう。

私たち家族も、昨年2月から10月まで、ビザの期限が切れていたのがアメリカでの不法滞在を余儀なくされてきました。というのも、ビザの期限が3年で切れ、切れる1年ほど前からずっと延長手続きを行っていましたがその許可がおりず、申請中という形で滞在を許されていましたが、昨年11月までに許可が下りない場合は強制的に帰国しなくてはいけませんでした。ですが、そのギリギリのところまで許可が下りたので、なんとか新しいビザも取得できたのでした。様々な理由からそのように不法滞在を余儀なくされている方もたくさんおられ、また、ビザ取得にも、取得期間を短くするためには多額なお金を払わなくてはいけず、そのお金が払えない人は手続きが後回しにされるという悲しい現実もあります。

今後のアメリカの政治的な動きに私たち移民もかなり影響を受けることになると思いますが、この国では子どもから大人まで、自国の政治的な動きに大変関心を持っています。また、その動きが自分たちの生活にどのように影響を及ぼすのか、また自分たちの考えや生き方とどのように共通点を持つのかまたは持たないのかということに関心を寄せています。その政治の動きが、考え方や生き方に合わないと考えられる場合は、はっきりと「No」を伝え、その環境をそのままにして置かず、変えていこうという動きが始まりま

す。そのことにはとても刺激を受けます。すでに決まってしまった大統領だから仕方ない、という形で受け止めて生きていこうとするのではなく、新しい大統領の方向性がこの国にとってまた世界にとって有益ではないと判断した場合は、すでに選挙が終わっているのに新大統領へのデモが付きません。各州の知事も声を上げて新しい動きに反対を表明しています。私たちは庶民であっても、また移民であっても、相手が大きい力であったとしても、「No」と言っていないんだ、「No」と言わなくてはいけないんだということを改めて感じています。そしてそれはやはり、次世代に残していく環境をより良いものにしたいと願っての大人たちの行動なのだと感じます。

(山本 知恵)



## 名護め七曲 (53)

### 「復帰」後の沖縄県政 6

沖縄史をちゃんと勉強せねば！という  
ことで、先史時代から始まり、今ようやく「復帰」後の沖縄県政の、大田知事の時代にさしかかっているところでございます。長いな。

\*\*\*

**【期限切れ、不法占拠】** 土地の強制使用を継続するための代理署名を国から求められた大田知事でしたが、基地負担の軽減や日米地位協定の見直しなど、具体的な解決策が何も示されていないことから知事はこれを拒否します▼本(『ジュニア版 琉球・沖縄史』p.320)には、「政府は、職務執行の命令をだしましたが…」とあるのですが、私は難しいことはよく分からないのですが、そもそも国が地方自治体に対して「命令」を出せる立場にあるのかどうか、少し不思議な構図のように思いますね。もちろん法律(地籍明確化法)は市町村長・知事による代理署名を求めているのかもしれませんが、行政に法の執行を「命令」という形で求めることができるのは、どちらかと言うとその法律を作った議会(国会)か、もしくは裁判所のような気がするのですが…▼まあいずれ

教会の火曜日 10時から12時 於：西宮共同教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

にしても大田知事は代理署名を拒否します。それで1996年4月1日から、読谷村の米軍施設(楚辺通信所)の一部が国による不法占拠状態になり、こりゃいかんということで、裁判になります。

**【代理署名裁判】**国は「知事が署名せんから不法状態に陥ったのだ」という理屈で沖縄県を訴えます。沖縄県もこの代理署名拒否の理由・正当性を裁判で意見するのですが、裁判所(福岡高裁那覇支部)は「いや、沖縄県がちゃんと法律に基づいて仕事をせんからこうなったのじゃ」と、沖縄県の主張を退けます。最高裁も沖縄県の上告を棄却します▼「沖縄県が法を執行してない」という国による訴えですから、事実関係だけ見れば確かに代理署名拒否は「法に従って仕事をしていない」ということになろうかとは思いますが。それ以上のことは、別途訴えがない限り、一つの事件の中では裁判所は判断しないと思います。多分裁判所ってそういう所なんだと思います。「その法律自体が不合法なんではないの」という別の裁判をおこしていれば、その時はまた違った判断が出されていたかもしれませんね。あまり期待してはいけないのかもしれませんが、立法も行政もまともじゃないなら、市民としては司法権に縋るよりほかありません。その司法が独立性を失ったような判断しかできないようなら、もう地球は終わりだと思ってよいでしょう。

**【県民投票】**1996年9月に、沖縄県は県民投票を実施しております。全国初だそうです。内容は「日米地位協定の見直しと

基地の整理縮小」を問うものでした。投票率は59.53%だったそうです。全国の知事選なんかの投票率と比べると、まあそんなところかなという印象でしょうか。

で、投票の結果ですが、「日米地位協定の見直しと基地の整理縮小」に賛成が482,538票で投票者数の89.09%。反対が46,232票でこちらは8.54%。賛成が圧倒的多数ですね、当然といえば当然の結果であろうと思います▼でも、ちょっとだけ疑問に思うのは、どうして沖縄県はこのタイミングでこの内容の県民投票を実施したのか、ということ。「日米地位協定の見直しと基地の整理縮小」なんて、そうそう意見の割れるような、今さら県民に問わなければならないようなお題ではないように思います。賛成の圧倒的多数を、県は多分見込んでいたでありましょうし、そうでなければこのタイミングでわざわざ実施しないと思います。沖縄県は、大田知事はこの時一体何を思っていたのでしょうかね。気になるところです。

\*\*\*

こうして歴史を振り返っている間にも、歴史は刻一刻と新しく積み重ねられています。これ、やってて終わるんだろうかと、やや心配になってきたところでもありますけれども、まあ頑張るしかありません。

(羽柴 禎)

# 2017年 教会と子どもセミナー 子どもを守れ！

～歌って願う、語って願う、踊って願う～

日 時：2017年3月20日（月、祝）  
午前9：30 受付、午後3時解散予定  
場 所：甲東教会  
内 容：1部 お話と歌、みんなで歌おう  
（講師：森 宣雄）  
2部 お芝居「想（SOU）」  
（出演：きむきがん、石原岳、高江フラ）  
参加費：大人、子ども1,000円（食費、保険料込み）  
持ち物：容器に入れたご飯、スプーン、水筒

主 催：兵庫教区教育部委員会 2017年 教会と子どもセミナー実行委員会

## ～ つとがわ・あれこれ ～

ずっと手元にあって断続的にしか読んでいなかった「セカンドハンドの時代」（スヴェトラナ・アレクシェーヴィチ、岩波書店）を、とにかく読んでいます。最近、そのアレクシェーヴィチの短い対談が雑誌に掲載されています。「すばる」（集英社）3月号です。「セカンドハンドの時代」が読めなかった何よりの理由は、そこにいる普通の人間の止まるところを知らない“悪・恐怖体験”が証言される時、読み手をなえさせずにはおかないからです。その悪を、アレクシェーヴィチが、聞いて記録することが可能だった理由が、前掲の対談で語られています。

「…悪というものが、善に比べてはるかに芸術性が高いことを発見しました。我が国の芸術においては、善は未だモノトーンです。悪が備えている鮮やかな濃淡、激しい起伏を持っていない」

「私自身は、これまで、自分の著作で、恐怖体験を集めて読者を脅かそうなどとは一度も考えたことはありません。私が集めているのは、人間の精神、魂や理想主義なのです。重要なのは、想像力を失われないことです。人生というものは、どんな場合にも前に進んでいます」

(S)

第72代横綱に昇進した稀勢の里閔の祝賀パレードに行ってきました。19年ぶりの日本人横綱の誕生、茨城県牛久市の出身ということで、こんな機会はないかもしれない。これは行っとかなくちゃ！と、車で1時間、牛久市へと行ってきました。

母が好きな相撲。私が小さい頃から相撲の時期になると、夕飯の支度をしながら毎日相撲が流れていました。そんなに興味はなかったけれど、嫌いではなかった。千秋楽に近づくとう優勝争いが熱かったり、私も一緒に見ていたな～と懐かしく思い出します。

人口8万人の牛久市に5万人が駆けつけたという18日のパレード。オープンカーに乗って、沿道の人たちに笑顔で手を振っていた稀勢の里閔。間近で見ることができて、大きくてかっこよかった！！私の方を向いて手振ってくれたー！なんて言いながら～。今年が良いことがありそうです♪

3月12日から始まる春場所。横綱になって初めての取り組みだったり、他の横綱たちとの闘いがどうなるか～など、いつになく楽しみです。これから夕飯の支度をしながら、私も相撲観戦することになりそうです。

(C)

新聞の下の方、本の宣伝欄でふと目に留まった「唾峻淑子」。誰だったかな、何て読むんだったかな、でも何かですごく知ってる気がする…。

それで本屋で手にとってみると読み方は「てるおかいつこ」。サンタクロースの存在について子供の疑問に父親が苦戦しながら答えるというあの絵本を書いた人でした。

『対話する社会へ』戦争・暴力の反対語は平和ではなく対話です、と書かれたこの本、読んで新たな発見がいっぱい。ただ本当には理解できていないと思われまます。なにしろこれまで「対話」をしてきた自信がありませんから…。

(Y)

3年ぶりにアートギャラリーで小黑三郎さんのお雛さま展をさせていただきました。新作の「つぼみびな七段飾り」から、銀杏びな、円びなど以前からの人気のももあり、とても華やかでした。材質は、ブナやセンのものが多く、木の肌もツルツルとしてとてもきれいです。小黑さんの作品はただ眺めるだけでなく、飾って片づけることが遊びになるお雛さまです。「祭りの主人公である子どもたちに遊んでほしいと願っています。」とのお黒さんの言葉に深い愛情が感じられ、子どもが手に取って遊ぶことにこだわって作られているお黒さんの作品は、大人だって楽しめます。木の温かみと、やさしい人形たちの表情が、ほっこり和ませてくれます。これからも、お黒さんが向き合われる作品たちに触れ、少しでも学んでいきたいと思えます。

(K)

年度の終わりが近づいている。1年の間に前期後期それぞれ4コマずつくらいの講義を大学で非常勤勤務。両期合わせて4つの学校に。大体10月11月くらいに「来期も」との連絡が来るがどうも今回、中の1校がどうなったかが自分でもはっきりしない。しかし1月になっても何も無いのは如何なものかこのわたしでも思い始めた。というのが、ある1校は年間に5コマ仕事をしていてそれがあたりまえのように思っていたら、いざシラバスの提出の時になって3枚。えっ！？と、なって教務に問い合わせ、何と専任に譲ってほしいとのことで依頼書には3コマと書いてあった。へーそうか、丁寧に見なかったわたしが悪い、専任には弱いわねと思って簡単に諦めそうになったら、

大学に迎えてくださった方々の耳に届き、大きな騒ぎに。その時の人事の担当で進められるらしく、そんな知らせがあった時だったら何とかできたのに（すでに3ヶ月経過）、また今からでも当人が声をあげるとも。しかし実は小心者で、自分を売り込むなんてというこのわたし、いえいえと引き下がったということが2年前にありました。そんな人事は学部長でもどうにもできないらしく何度もその方から頭を下げていただいたが、まあ年齢なりに楽をしろってことかしらと5から3へ一件落着にしたのです。しかしどの大学も人のつながりで機会が与えられたもの、特に今回はわたしがその科目を担当できる余裕ができるまで、つないでくださった方がおられての仕事。そんな簡単にそれではとはならない。その方に電話したら、何と「直訴だ」と言われる。誰に！？わたしを呼んでくださった方と一緒に最初に出会ったお偉いさんが、より偉くなっているからそこにだ。えーっ人のことならどんなことにも怖気づかないわたしですが、自分の売り込みはと尻込みしたいところ。しかしとにかくこれはやるしかない。で行きました。そんな人事にビックリされ、ですぐに動かれ事情聴取、またまた今回も専任とやらの登場。それもその科目は自分がしたいと言うお方がおられたらしく、しかしそれならそれで違う科目をとということで、こんな結果は申し訳ないが引き受けてもらえるかとの丁寧なお申し越し、しかも翌日に。まあいいでしょうなんて偉そうに言うなんてことはなく、ありがたくお申し出を受けることになりました。

やばかったけれど、でも一つ思うこと、「人のつながりの大切さ」です。（長々とすみません）

(J)

カット (A・T)



## 政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

3月31日（金）栗原 康先生

4月1日（土）栗原 康先生